

「税について」

札幌市立中央中学校 三年 佐藤 彪瑛

「税」と聞いて、あなたはどのように感じるだろうか。必要なもの、義務、負担など人によって様々な捉え方があるが、私は「国を豊かにするもの」だと思う。

税のつかい道は、年金や医療、学校、公共事業、科学技術の研究など様々ある。その中から今回は、公共事業を例に挙げて話していきたい。公共事業では、上下水道などの生活インフラ、道路整備などの交通インフラ、ダムなどの防災インフラなどを行っており、それによって、国民生活の向上や災害時の被害の軽減、事故の防止や環境保全などの効果がある。これは国を豊かにし、私たちを豊かにしているといえる。

もし、税という仕組みがなく、公共事業のための財源が確保できなかったら、道路が整備されず人や物の移動が困難になり、経済発展が相当遅れてしまう。また、上下水道等の生活インフラが整備されていなければ、安全な水が確保できず、感染症がまん延する等国民の衛生状態が著しく低い状態になる。更に、ダムや河川整備など防災インフラが整わなければ、災害発生時の被害はより大きなものになってしまう。

また私たち中学生にとって一番身近な学校も、税金によって運営されている。義務教育の九年間で、一人当たり八百万円以上という莫大な税金が私たちの教育に費やされている。

このように、税は、私たちの生活基盤を支える欠かせない機能となっている。

税を払っても直接お金が増えて戻ってはこない。なぜなら、税は国を豊かにするものだから。すぐには戻ってこなくても、国が豊かになれば、この地に住む私たちも豊かになると私は思う。そして税を払うことは、私たちの義務である。それと同時に、税金を管理する側にも国を豊かにする義務があると私は考える。しかしそれは、役割分担であって別の「チーム」ではない。だから結局は、税金は自分から離れていくのうに見えて、実は自分も所属している「チーム」の中で循環しているのである。